

Made for



iPod



iPhone

ホームシアターパッケージ
(AV アンプ・サブウーファー + スピーカー)

YHT-S351

(SR-301 + NS-P705)

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。
- 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

保証書別添付

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード



電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

必ず実行



下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

● 異常なおいや音が出る。 ● 異常に高温になる。

プラグを抜く

● 内部に水や異物が混入した。 ● 煙が出る。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



電源コードを傷つけない。

● 重いものを上に載せない。

● ステープルで止めない。 ● 加工をしない。

● 熱器具には近づけない。 ● 無理な力を加えない。

禁止

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行



本機の○キーでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

本機を完全に電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。

必ず実行

電池



電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

禁止



電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止



電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

禁止

分解禁止



分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

分解禁止

設置



本機を下記の上記の場所には設置しない。

● 浴室・台所・海岸・水辺
● 加湿器を過度にきかせた部屋
● 雨や雪、水がかかる場所

水ぬれ禁止

水の混入により、火災や感電の原因になります。



放熱のため本機を設置するには:

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
(本機の周囲に左右5cm、上5cm、背面5cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



必ず実行

スピーカーケーブルは必ず壁などに固定する。

ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが落下や転倒し、故障やけがの原因となります。

使用上の注意



禁止

放熱用のパネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。



必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。



禁止

ポート（前面開口部）に異物を入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因になります。

お手入れ



必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池



必ず実行

電池は極性表示(プラス+とマイナス-)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。



電池は幼児の手の届かない所に保管する。

口に入れたりすると危険です。

必ず実行



長時間使用しない場合は、電池をリモコンから抜いておく。

電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、リモコンを損傷するおそれがあります。

必ず実行

設置



不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止



直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止



ほこりや湿気が多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

禁止



本機の底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止



機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。

突然大きな音がでたり感電の原因になります。

必ず実行



他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

AVアンプ・サブウーファーはデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行



他の電気製品を本機の上に置かない。

AVアンプ・サブウーファーの上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

禁止



屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。

工事には、技術と経験が必要です。

必ず実行

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

プラグを抜く



持ち運ぶときは、ポート（前面開口部）、前面のネットに手をかけない。

ポートが外れたり、ネットが破れたり、本機を落としたり、本機を落としたりして、けがの原因になります。

禁止

使用上の注意



再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

必ず実行



音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止



環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

注意



AVアンプ・サブウーファーはデジタル信号を扱います。ほかの電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

注意



業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

禁止



ポート（前面開口部）に手を入れない。

感電やけがの原因になります。

禁止



ポート（前面開口部）のすぐ前に、割れやすい物を置かない。

ポート（前面開口部）からの空気圧により、物が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

お手入れ



お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

必ず実行



薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

禁止



お手入れするときは、柔らかい布で乾拭きする。合成洗剤や化学ぞうきんで拭いたりしない。

色がはげたり、外装が損傷することがあります。

禁止

目次

はじめに

はじめに	2
同梱品を確認する	2
リモコンを準備する	2
各部の名称とはたらき	3

準備

システムの設置	6
スピーカーの設置	7
接続	8
スピーカーを接続する	8
テレビやBDレコーダーと接続する	9

基本操作

基本操作	10
ヘッドホンで聴く	10
さまざまなサウンド効果	11
サラウンドで再生する	11
ステレオで再生する	11
クリアボイス	11
ニカ国語放送の音声の切り替え	11
ミュージックエンハンサー	12
ユニボリューム	12
スピーカーレベルの調整	12
FM ラジオを聴く	13
基本的な選局操作	13
プリセット選局機能を使う	13
iPod/iPhone や USB デバイスの再生	15
再生する	15
リピート/シャッフル再生	16
曲の情報を表示する	16
ファームウェアアップデート	16

応用操作

設定メニュー	17
設定メニューリスト	17
基本手順	17
各チャンネルの音量バランスの設定	18
低音 / 高音を調整する (トーンコントロール)	18
HDMI に関する設定	18
フロントパネルディスプレイの明るさを変える	18
付属以外のスピーカーを使用する	19
ダイナミックレンジ圧縮の設定	20
マトリックスデコードの設定	20
入力ごとの設定 (オプションメニュー)	21
各端子の入力レベルを設定する (VOLUME TRIM)	21
映像と音声のタイミングを調整する (AUDIO DELAY)	21
音声を光 / 同軸デジタル入力に割り当てる (AUDIO ASSIGN)	21
テレビのリモコンで本機を操作する	22
HDMI コントロール機能とは	22
HDMI コントロール機能の設定	22
HDMI 機器のテレビへの登録	23
接続方法や接続機器を変更する	23

その他の情報

困ったときは	24
用語解説	27
主な仕様	29
対応する信号	30

本機でできること

- 定位感に優れた高品位なサラウンド再生 (AIR SURROUND XTREME 搭載) 11 ページ
- ナレーションやセリフを聞き取りやすく (クリアボイス機能) 11 ページ
- テレビのリモコンで本機を操作 (HDMI コントロール機能) 22 ページ
- iPod/iPhone を高音質再生 (iPod/iPhone デジタル接続) 15 ページ
- お好みのスピーカーで 5.1 チャンネルまでのシステム拡張 19 ページ

■ 本書の記載について

- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- 「 ヒント」では、知っておくと便利な補足情報を記載しています。「**ご注意**」では、安全に関する重要な注意事項と操作方法を記載しています。

はじめに

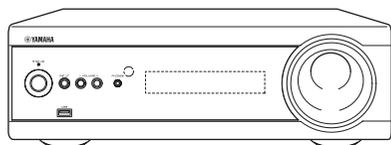
はじめに

同梱品を確認する

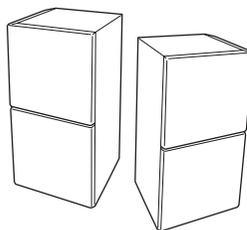
ご使用になる前に、同梱品がすべてそろっていることをご確認ください。

■ YHT-S351 の構成

AV アンプ・サブウーファー
(SR-301)



スピーカー：2台
(NS-P705)



■ 付属品

スピーカーケーブル：
2本/各3m



光ファイバー
ケーブル：1本/2m



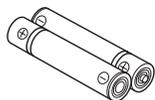
リモコン：1個



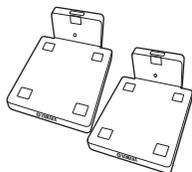
FM アンテナ：1本



単4乾電池：2本



スタンド (スピーカー用)：2個



ネジ (スタンド用)：2本



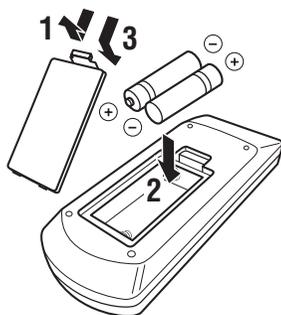
取扱説明書：1冊



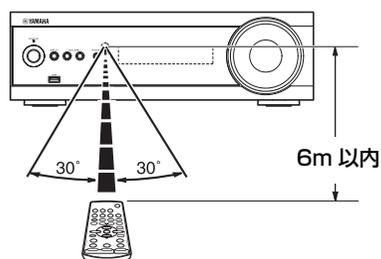
リモコンを準備する

電池を入れる前やリモコンを使う前に、「安全上のご注意」の「電池」および「リモコン」をよくお読みください。

■ リモコンに電池を入れる

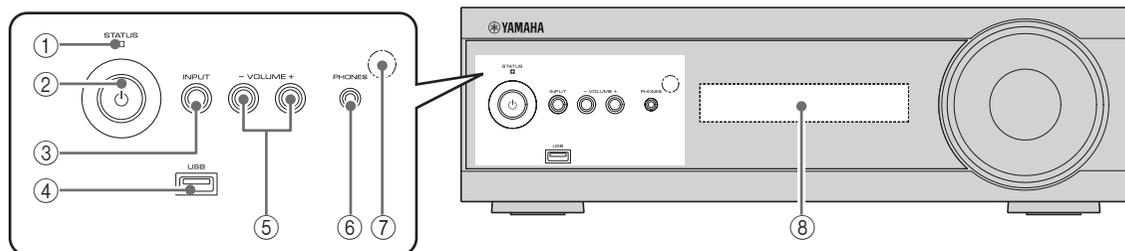


■ リモコンの操作範囲



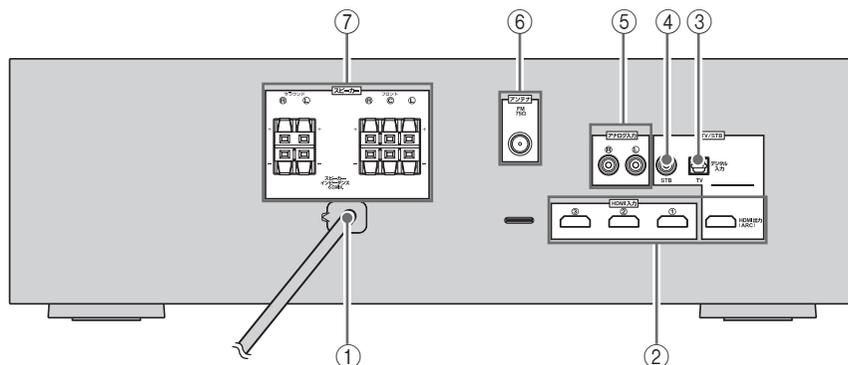
各部の名称とはたらき

■ AV アンプ・サブウーファースのフロントパネル（前面）



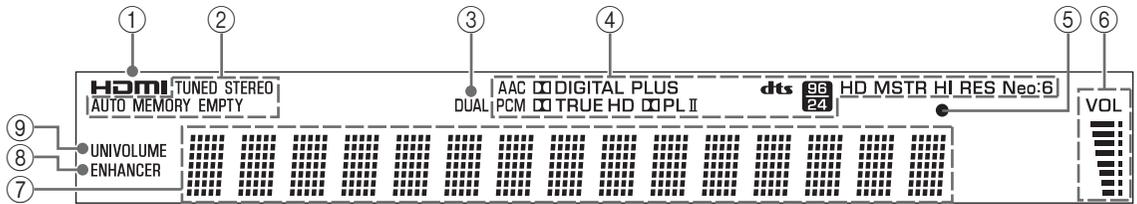
- ① ステータス **STATUS インジケータ**
システムの状態を表示します。(P. 10 ページ)
- ② **電源** キー
電源のオン/スタンバイを切り替えます。
(P. 10 ページ)
- ご注意**
スタンバイの状態でも、リモコンからの赤外線信号を受信するために少量の電力が消費されます。
- ③ インプット **INPUT キー**
再生する機器を選択します。(P. 10 ページ)
- ④ **USB 端子**
USB 接続機器を接続します。(P. 15 ページ)
- ⑤ ボリューム **VOLUME - /+ キー**
音量を調節します。(P. 10 ページ)
- ⑥ フォーンズ **PHONES 端子**
ヘッドホンのプラグを差し込みます。
(P. 10 ページ)
- ⑦ **リモコン受光部**
リモコンの赤外線信号を受信します。
(P. 2、5 ページ)
- ⑧ **フロントパネルディスプレイ**
再生の状態や設定値などを表示します。
(P. 4 ページ)

■ AV アンプ・サブウーファースのリアパネル



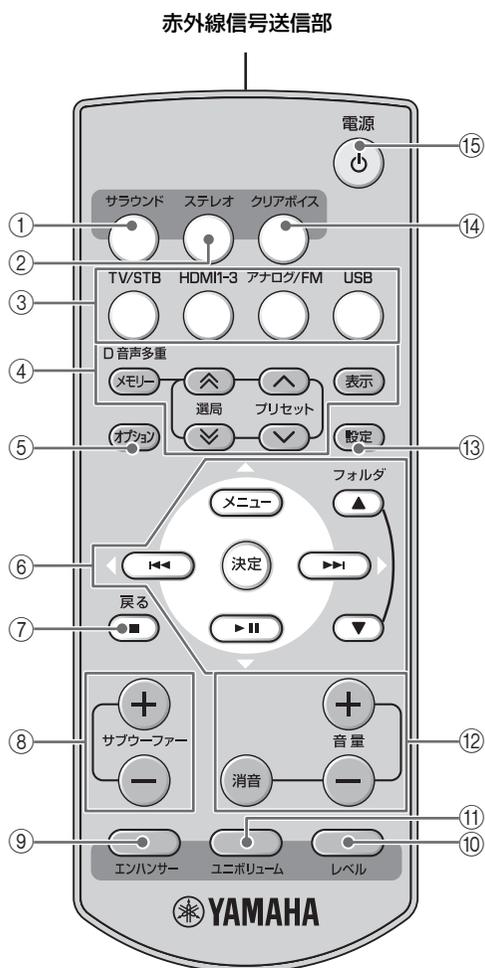
- ① **電源コード**
電源コードをコンセントに接続します。
(P. 8 ページ)
- ② **HDMI ①-③ 入力端子 / HDMI 出力端子**
- HDMI ① - ③ 入力端子は HDMI 対応の外部機器を接続します。(P. 9 ページ)
 - HDMI 出力端子は、HDMI 対応のテレビを接続します。(P. 9 ページ)
- ③ **光デジタル入力 (TV) 端子**
付属の光ファイバーケーブルでテレビのデジタル出力端子と接続します。(P. 9 ページ)
- ④ **同軸デジタル入力 (STB) 端子**
外部機器と同軸デジタル接続します。
(P. 9 ページ)
- ⑤ **アナログ入力端子**
外部機器をオーディオケーブルで接続します。
(P. 9 ページ)
- ⑥ **アンテナ端子**
付属の FM アンテナを接続します。(P. 9 ページ)
- ⑦ **スピーカー端子**
スピーカーを接続します。(P. 8 ページ)

■ AV アンプ・サブウーファーのフロントパネルディスプレイ



- ① **HDMI インジケーター**
 入力ソースとして HDMI を選択したとき、正常に信号受信が行われると点灯します。
- ② **チューナーインジケーター**
チューンド
TUNED インジケーター
 ラジオを受信しているときに点灯します。
 (☞ 13 ページ)
- ステレオ
STEREO インジケーター
 自動 (オート) 選局モードで FM ステレオ放送の強い信号を受信しているときに点灯します。
 (☞ 13 ページ)
- オート
AUTO インジケーター
 自動的に放送局を登録 (サーチ) しているときに点滅します。(☞ 13 ページ)
- メモリー
MEMORY インジケーター
 放送局を登録中に点滅します。
 (☞ 13、14 ページ)
- エンプティ
EMPTY インジケーター
 プリセット番号が空のときに点灯します。
 (☞ 14 ページ)
- ③ **DUAL インジケーター**
デュアル
 音声多重放送が入力されているときに点灯します。
 (☞ 11 ページ)
- ④ **デコーダーインジケーター**
 本機に内蔵されているデコーダーが作動しているときにそれぞれのインジケーターが点灯します。
- ⑤ **クリアボイスインジケーター**
 クリアボイス機能がオンのときに点灯します。
 (☞ 11 ページ)
- ボリューム
 ⑥ **VOLUME インジケーター**
ボリューム
 • 現在の音量を VOLUME インジケーターで表示します。
 • 本機を消音 (ミュート) しているときに点滅します。(☞ 10 ページ)
- ⑦ **マルチインフォメーション・ディスプレイ**
 選択されている入力、現在のサラウンドモードやその他の情報を表示します。
- エンハンサー
 ⑧ **ENHANCER インジケーター**
 ミュージックエンハンサー機能が作動しているときに点灯します。(☞ 12 ページ)
- ユニボリューム
 ⑨ **UNIVOLUME インジケーター**
 ユニボリューム機能が作動しているときに点灯します。(☞ 12 ページ)

■ リモコン



① サラウンドキー

サラウンドモードを選択します。(☞ 11 ページ)

② ステレオキー

拡張ステレオ機能のオン/オフを切り替えます。(☞ 11 ページ)

③ 入力キー

再生する機器を選択します。(☞ 10 ページ)
以下のキーを繰り返し押しして、各入力を選択できます。

TV/STB : TV、STB

HDMI1-3 : HDMI1、HDMI2、HDMI3

アナログ/FM : ANALOG、FM

USB : USB

④ メモリー、選局 $\blacktriangle/\blacktriangledown$ 、プリセット $\blacktriangle/\blacktriangledown$ 、表示キー

FM 放送局の選局に使用します。(☞ 13 ページ)

⑤ オプションキー

各入力ごとのオプションメニューに入ります。(☞ 13、15、21 ページ)

⑥ \blacktriangle (MENU) / \blacktriangleleft (\blacktriangleleft) / \blacktriangleright (\blacktriangleright) / \blacktriangledown (\blacktriangledown)、決定キー

- 設定を変更します。
- iPod/iPhone や USB メモリー、携帯音楽プレーヤーなどの USB デバイス进行操作します。(☞ 15 ページ)

$\blacktriangle/\blacktriangledown$: iPod/iPhone の画面スクロール、または USB メモリー内のフォルダをスキップします。(☞ 15 ページ)

⑦ 戻るキー

- プリセット登録を中断させます。(☞ 13 ページ)
- 1 つ手前のメニュー表示に戻します。(☞ 21 ページ)
- USB メモリー、携帯音楽プレーヤーなどの USB デバイスの操作を停止します。(☞ 21 ページ)

⑧ サブウーファー (+ / -) キー

サブウーファースの音量のバランスを調節します。(☞ 10、18 ページ)

⑨ エンハンサーキー

ミュージックエンハンサー機能のオン/オフを切り替えます。(☞ 12 ページ)

⑩ レベルキー

スピーカーの出力レベルを調整します。(☞ 12 ページ)

⑪ ユニボリュームキー

ユニボリューム機能のオン/オフを切り替えます。(☞ 12 ページ)

⑫ 音量 (+ / -)、消音キー

音量を調節します。(☞ 10 ページ)

⑬ 設定キー

設定メニューに入ります。(☞ 17 ページ)

⑭ クリアボイスキー

クリアボイス機能のオン/オフを切り替えます。(☞ 11 ページ)

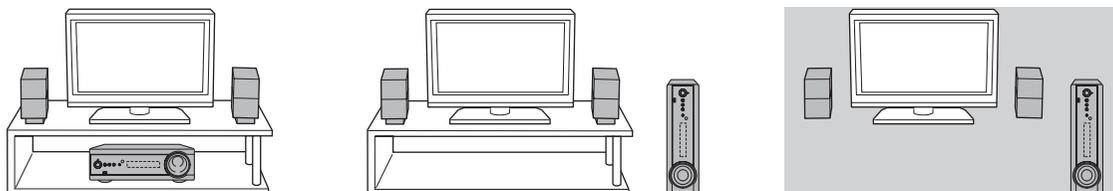
⑮ power (電源) キー

電源のオン/スタンバイを切り替えます。(☞ 10 ページ)

準備

システムの設置

臨場感あるサラウンドを十分にお楽しみいただくためには、システムを安定した場所に適切に設置する必要があります。本システムの設置イメージは以下のようになります。

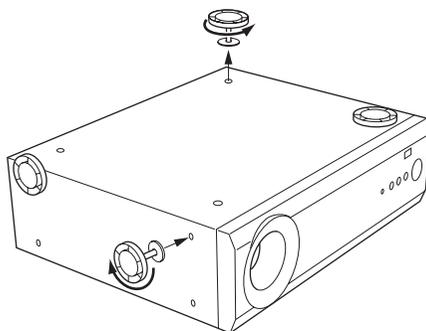


ご注意

- 本システムをBDレコーダーなどの上や下に直接置かないでください。本システムの振動により外部機器の故障につながる恐れがあります。
- 本システムの横、後ろおよび下のスペースを確保し、通気をよくしておいてください。また、厚いカーペットなどの上には設置しないようにしてください。
- 低音の聴こえかたは、AV アンプ・サブウーファーを置く位置や聴く位置によって異なりますので、設置場所を変えてお楽しみください。
- 設置状況によっては、テレビやBDレコーダーなどの外部機器を接続してから本機を設置したほうがよい場合もあります。一度仮置きをして設置状況を確認し、設置と接続のどちらから行うか決定することをおすすめします。
- 持ち運びの際はスピーカーのネットを押さえないでください。
- お手入れの際は乾いた柔らかい布（メガネ拭き用クロスなど）をお使いください。

AV アンプ・サブウーファーを縦置きする場合

下図のように底面の脚部を側面のネジ穴に付け替えてください。



スピーカーの設置

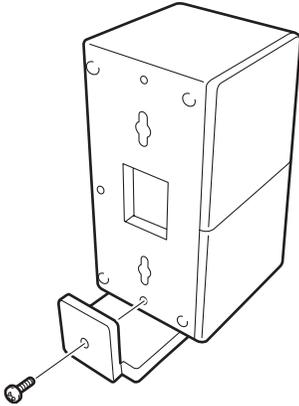
ラックの上に置いたり、壁に取り付けたりすることができます。環境に適した設置方法を選んでください。

■ スタンドを使ってスピーカーを設置する

スピーカーは縦向きと横向きに設置することができます。

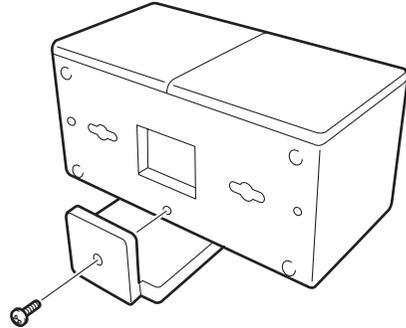
縦向きに設置する場合

下図のようにスピーカーを垂直に立ててスタンドを取り付け、ネジで固定してください。



横向きに設置する場合

下図のようにスピーカーを横にしてスタンドを取り付け、ネジで固定してください。

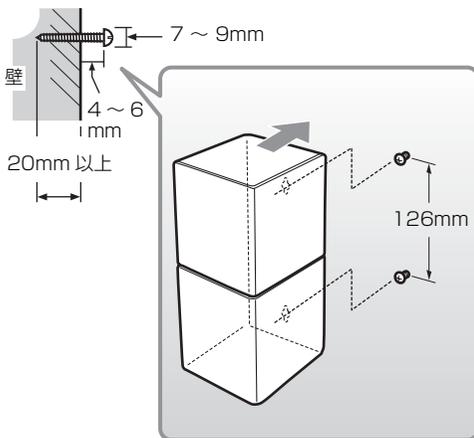


■ スピーカーを壁に設置する

キーホールを使用して設置する

市販のネジ（ネジ頭の直径 7 ~ 9mm）を使用して壁に設置します。

スピーカーを壁に設置する際は、専門の業者または販売店に依頼してください。お客様ご自身で作業を行わないでください。設置方法を間違えると、スピーカーが落下し、けがの原因になります。



- 1 スピーカーを壁に取り付ける場合は、スタンドをはずす。
- 2 図のようにネジを取り付ける。
ネジ間の距離はどちらも 126mm になります。
- 3 スピーカーをネジに掛けて設置する。

ご注意

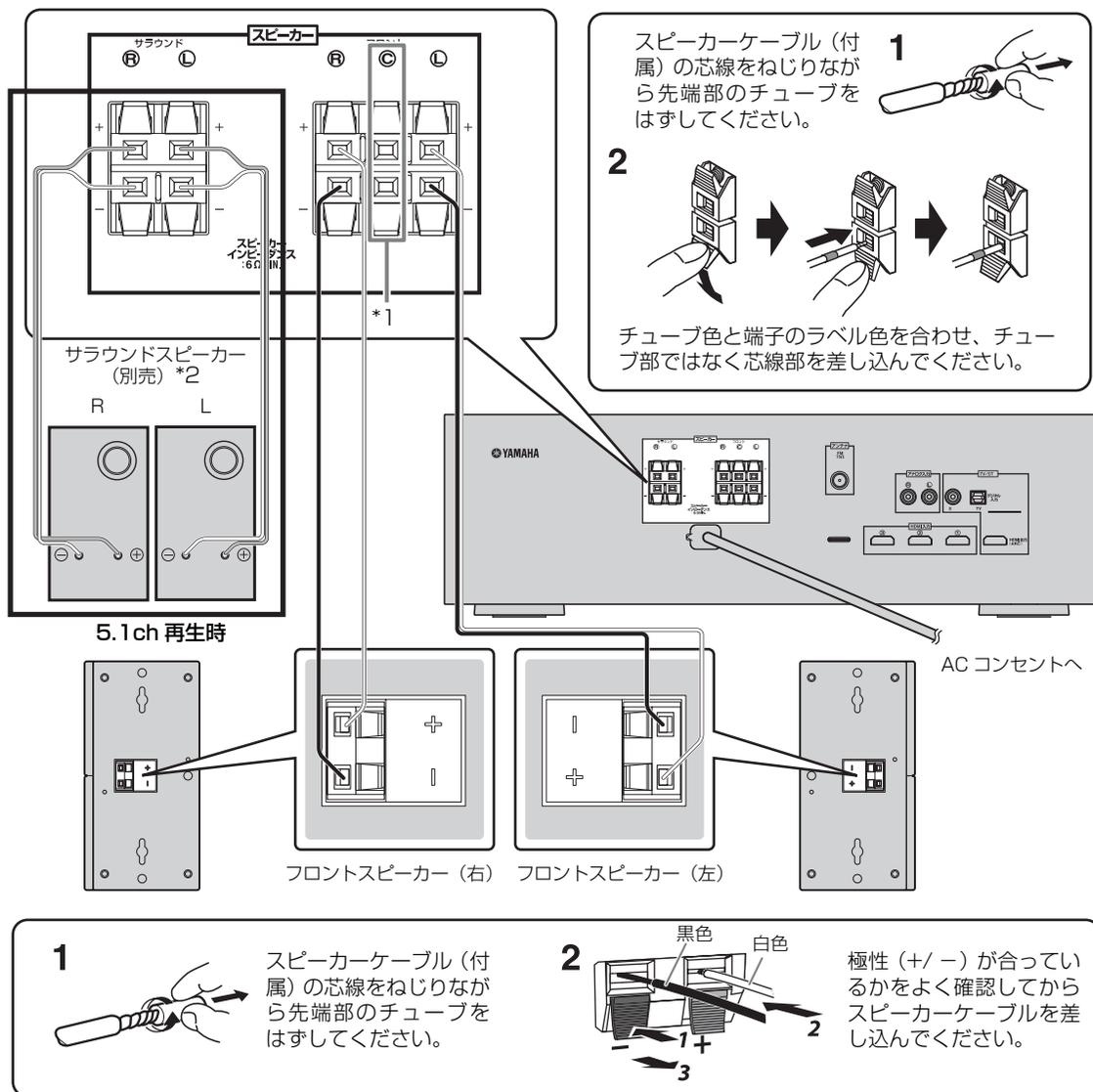
- スピーカーはラックや壁に設置してください。しっくいやベニヤ板のような弱い材質の壁には設置しないでください。スピーカーが落下する原因となります。
- スピーカーを十分に支えられる市販のネジを使用してください。
- 設置する前に、ネジを確認してください。規定より短いネジやくぎ、両面テープのご使用はスピーカーが落下する原因となります。
- スピーカー設置の際は、スピーカーケーブルを必ず固定してください。誤って手や足に引っ掛かると、スピーカーが落下する原因となります。
- 設置後、スピーカーがしっかりと固定されていることを確認してください。誤った設置により起きた事故について、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。

接続

- 電源コードは、すべての接続が完了してから接続してください。
- ケーブルプラグや端子に損傷をあたえる原因となりますので、プラグを差し込む際に強い衝撃をあたえないようにしてください。

スピーカーを接続する

下記の手順に従って本機とスピーカーを接続してください。
 付属のスピーカー以外を使用する場合は「付属以外のスピーカーを使用する」(P.19 ページ)を参照ください。



- *1 センタースピーカーを使用する際に接続してください。
- *2 5.1ch で再生する場合には、センタースピーカー (別売) とサラウンドスピーカー (別売) が必要になります。

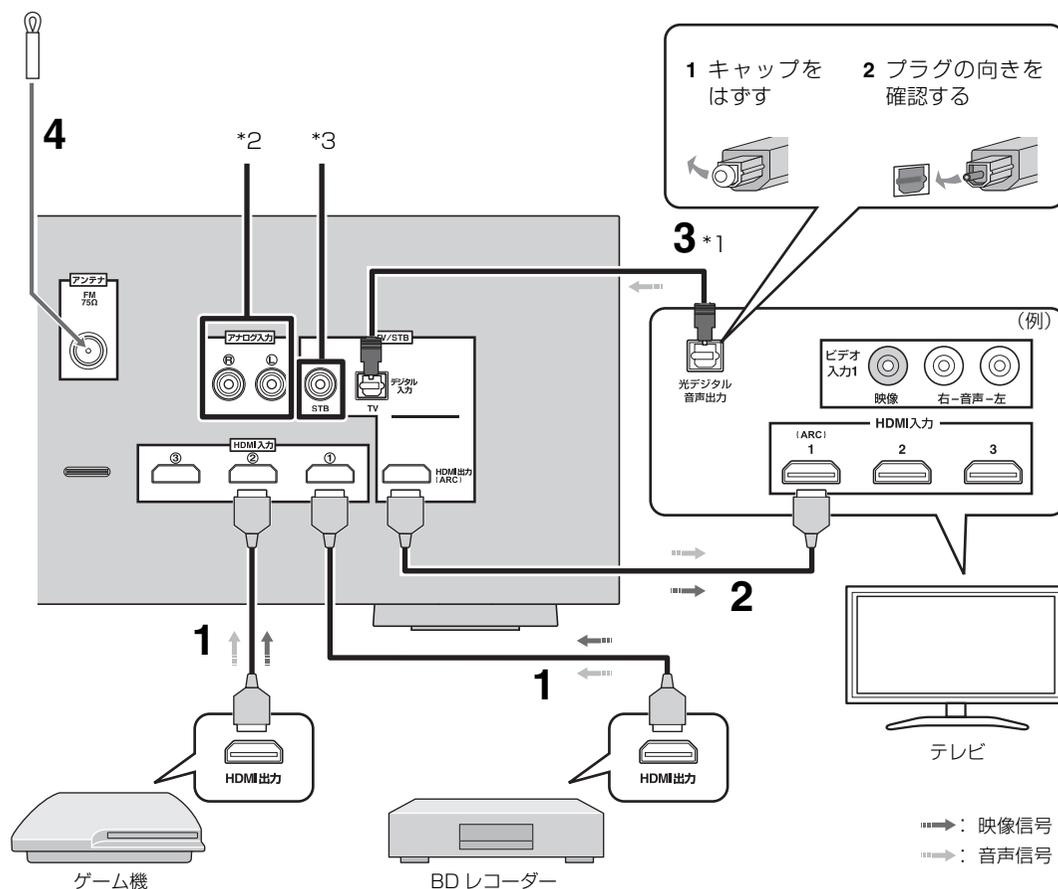
テレビや BD レコーダーと接続する

ケーブルはご使用の機器に合わせて、以下の順番で接続してください。

- 1 HDMI ケーブル (別売)
- 2 HDMI ケーブル (別売)
- 3 光ファイバーケーブル (付属) *1
- 4 FM アンテナ (付属)



ご使用の地域で電波状態が悪い場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくはお近くの販売店にお問い合わせください。



*1

本機の HDMI コントロール機能が有効で、テレビのオーディオリターンチャンネル対応端子（「ARC」などの表示のある端子）に HDMI ケーブルを接続した場合、光ファイバーケーブルの接続は必要ありません。

オーディオリターンチャンネル（ARC）は、テレビの出力するデジタルオーディオ信号を、HDMI ケーブルを通して本機へ伝送する機能です。（※18 ページ）

*2

アナログ音声用ステレオピンケーブル（別売）をビデオデッキなどのアナログ音声出力端子に接続し、アナログ音声を本機で再生します。

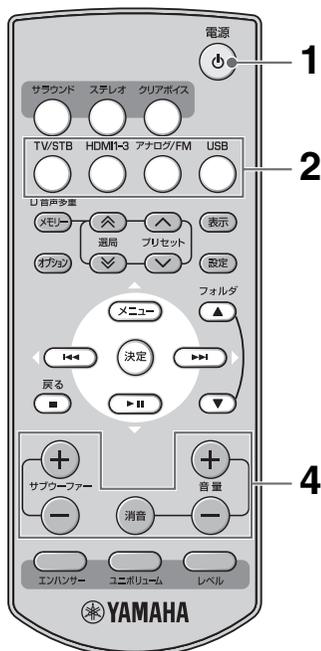
*3

デジタル音声用ピンケーブル（別売）を衛星放送 / ケーブルテレビチューナーの同軸デジタル出力端子に接続し、デジタル音声を本機で再生します。

基本操作

基本操作

すべてのケーブル接続とリモコンの準備が完了したら、下記の手順に従い再生してください。



- 4** 音量を調節するには、音量 (+ / -) キーを押す。
サブウーファースの音量を調節するには、サブウーファー (+ / -) キーを押す。



- 一時的に消音にするにはリモコンの消音キーを押します。消音機能を使って再生しているときは、ディスプレイの VOLUME インジケータが点滅します。消音を解除するには再度消音キーを押すか音量 (+ / -) キーを押します。
- テレビのスピーカーと本機の両方から音声が出力されている場合は、テレビを消音にしてください。
- サブウーファースの音量は音量と独立して設定ができます。
- サブウーファースの音量はテスト音を聴きながら調整することもできます。(※18 ページ)
- 夜はサブウーファースの音量を絞るなどしてお楽しみいただくことをおすすめします。

ご注意

HDMI 入力音声をテレビから出力している場合は、リモコンの音量 (+ / -) キーや消音キーを押しても音量は変化しません。

HDMI コントロール機能が使用できる場合は、テレビリモコンでも本機を操作することができます。詳しくは 22 ページをご覧ください。

1 リモコンの (電源) キーを押す。

電源が入り、STATUS インジケータが緑色に点灯します。
フロントパネルディスプレイには入力名とサウンドモードが表示されます。



電源をオンにした状態で、何も操作しない状態が 12 時間以上続いた場合、自動的に電源がオフになります。

2 いずれかの入力キーを押し、再生する機器を選択する。

入力名が 3 秒間表示されたあと、通常が表示 (入力名: サラウンド/ステレオモード名) になります。

3 選択した外部機器の再生を開始する。

外部機器について詳しくは、ご使用の機器の説明書を参照してください。

5 サラウンドモード、ステレオモードなどを選び、お好みのサウンドに設定する。(※11 ページ)

もう一度 (電源) キーを押して、本機をスタンバイにします。

HDMI コントロール機能がオンのとき、または iPod/iPhone を充電しているときは、STATUS インジケータは赤色に点灯します。HDMI コントロール機能がオフのときは、STATUS インジケータは消灯します。(※3 ページ)

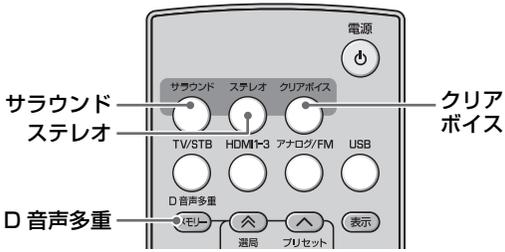
ヘッドホンで聴く

本機のヘッドホン端子 (※3 ページ) にヘッドホンのプラグを差し込む。



- ヘッドホンの音量とトーンコントロールは、スピーカーの設定とは別に設定できます。
- ヘッドホンを使用する場合でも、スピーカーによる再生と同様にサウンド音声やステレオ音声をお楽しみいただけます。(※11 ページ)

さまざまなサウンド効果



サラウンドで再生する

臨場感のあるサラウンドで再生します。

サラウンドキーを押して、サラウンドモードに切り替える。

サラウンドキーを押すたびに、フロントパネルディスプレイに表示されるサラウンドモード名が切り替わります。

サラウンドモードは次の順で切り替わります。

表示	効果
MOVIE	映画コンテンツの視聴に適しています。
MUSIC	音楽コンテンツの視聴に適しています。
SPORTS	スポーツ番組の視聴に適しています。
GAME	ゲームを楽しむのに適しています。
TV PROGRAM (TV PROG)	一般的なテレビ番組の視聴に適しています。
STANDARD*1	音響効果をつけずに再生します。

*1 サラウンドスピーカーを接続し、再生する場合にのみ設定可能です。(※ 19 ページ)



- 入力ごとに設定されたモードを記憶します。
- EPG ジャンルコードを取得したときは、自動的にそのジャンルに適したサラウンドモードに設定します(おまかせサラウンド機能)(※ 22 ページ)。フロントパネルディスプレイには 3 秒間「AUTO」と表示されます。
- サラウンドスピーカーを使用しない場合は AIR SURROUND XTREME 技術を使用して定位感に優れた高品質な 7.1ch サラウンド再生を実現します。
- 一部の設定時に DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューションは通常の DTS フォーマットでデコードします。

ステレオで再生する

2ch ステレオで再生します。

ステレオキーを押して、ステレオモードに切り替える。

ステレオキーを押すたびに、拡張ステレオ機能のオン (EXTENDED STEREO) / オフ (STEREO) が交互に切り替わります。

「STEREO」: 音響効果をかけずにステレオで再生します。

「EXTENDED STEREO」: 「STEREO」よりも拡がりを感じるサウンドを得られます。サラウンドスピーカーで再生時は、サラウンドスピーカーからもステレオ音が強調されます(マルチチャンネルステレオ機能)。



- 初期設定値はオン (EXTENDED STEREO) です。
- 入力ごとに設定を記憶します。

クリアボイス

映画やドラマ、スポーツ中継の実況や解説などの音声を聞き取りやすくします。

クリアボイスキーを押して、機能のオン / オフを切り替える。

クリアボイス機能がオンのときは、フロントディスプレイに「●」(クリアボイス) インジケータが表示されます。



入力ごとに設定を記憶します。

二カ国語放送の音声の切り替え

BS/地上デジタル放送の AAC やドルビーデジタルの音声多重信号入力時に、再生する音声を選択します。

D 音声多重キーを繰り返し押して、以下の中から再生する音声を切り替える。

フロントパネルディスプレイは切り替え時に以下のように表示されます。

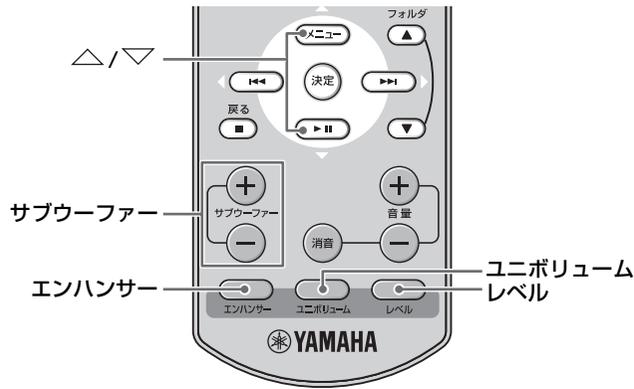
「MAIN」: 主音声を出力します。

「SUB」: 副音声を出力します。

「ALL」: 主音声と副音声の両方を出力します。

ご注意

主音声と副音声の切り替えが可能な放送には デュアル DUAL インジケータが点灯します。



ミュージックエンハンサー

MP3やWMAなどの圧縮音声を、低音域と高音域を強調、拡張してダイナミックに再生します。

エンハンサーキーを押して、機能のオン/オフを切り替える。

ミュージックエンハンサー機能がオンのときは、フロントディスプレイにエンハンサー ENHANCERインジケーターが表示されます。



入力ごとに設定を記憶します。

ユニボリューム

テレビを視聴中、以下のような場合に、過大な音量の差を補正して聞きやすくします。

- チャンネルを切り替えた
- 番組からCMへ変わった
- 番組が終わって次の番組が始まった

ユニボリュームキーを押して、機能のオン/オフを切り替える。

ユニボリューム機能がオンのときは、ユニボリューム UNIVOLUMEインジケーターが表示されます。



入力ごとに設定を記憶します。

スピーカーレベルの調整

再生しながら音量バランスを調節します。

1 レベルキーを繰り返し押し、以下の表示の中から調節したいチャンネルに切り替える。

チャンネル表示

FRONT L、FRONT R	フロントスピーカー（左/右）
CENTER	センタースピーカー
SURROUND L、SURROUND R	バーチャルサラウンドスピーカー、またはサラウンドスピーカー（左/右）
SUBWOOFER	サブウーファー

2 調節したいチャンネルを表示中に、△/▽キーを押して音量レベルを調節する。

設定範囲 -6 ~ +6（初期設定値：0）



サブウーファーの音量はサブウーファー(+/-)キーを押して調節することもできます。

ご注意

- ヘッドホン使用時は調整できません。
- 各スピーカーの設定は全入力に共通して有効になります。

FM ラジオを聴く

基本的な選局操作

アナログ /FM キー

繰り返し押し続けてFM入力に切り替えます。

メモリーキー

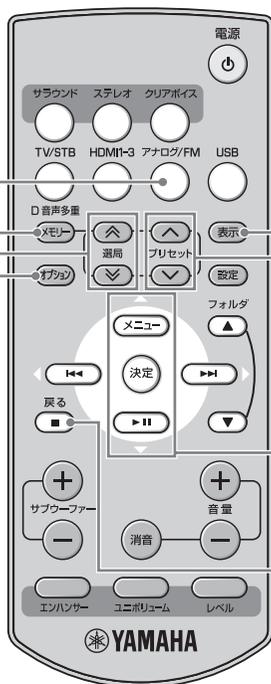
手でプリセット登録するときに使います。

選局△/▽キー

短く押すと1ステップずつ周波数を変更し、長押しすると自動で放送局を探します。

オプションキー

FM入力するときオプションメニューに入ります。



表示キー

周波数とサラウンドモードの表示を切り替えます。

プリセット△/▽キー

プリセットされた放送局を選択します。

オプションメニュー内操作キー

戻るキー

1つ手前のメニュー表示に戻したり、動作を中断させたりします。

プリセット選局機能を使う

■ 自動プリセット

FM 放送局を自動的に40局(01~40)まで登録(プリセット)できます。

1 リモコンのアナログ/FMキーを繰り返し押し続けて、FM入力に切り替える。

2 リモコンのオプションキーを押して、オプションメニューに入る。

「1. VOLUME TRIM」が最初の項目で表示されます。

3 △/▽を押して「2.AUTO PRESET」を選択し、決定キーを押す。



プリセット△/▽キーを繰り返し押し続けて最初に登録するプリセット番号を選ぶことができます。

約5秒後に現在の周波数から高い周波数に向かって放送局を探し始め、自動的に登録してい

きます。周波数が登録されたとき、^{チューンド}TUNEDインジケーターが点灯します。

自動プリセットが終了すると、ディスプレイに「Preset Complete」というメッセージが3秒間表示され、その後オプションメニューの項目選択表示に戻ります。



オートサーチ中に戻るキーを押すと、自動プリセットを中止します。

ご注意

- すでに放送局が登録されているプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消去され、新しい放送局に入れ替わります。
- 登録する放送局の数が40に満たない場合には、全周波数帯域を一周して停止します。
- 自動プリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。お好みの放送局が登録されていない場合、またはお好みの番号に登録されていない場合は、手動でお好みの放送局を登録してください。(P.14 ページ)

■ 手動プリセット

お好みの放送局を手動で登録するときに使用します。

1 お好みの放送局を受信する。

2 リモコンのメモリーキーを押す。

フロントパネルディスプレイに「MANUAL PRESET」と表示され、しばらくすると登録先となるプリセット番号が表示されます。



メモリーキーを2秒以上押し続けると、最も番号の小さい空のプリセット番号、または前回登録した次のプリセット番号に放送局を登録できます。

3 プリセットへ/▽キーを押して、登録先となるプリセット番号(01～40)を選択する。

空のプリセット番号を選ぶとEMPTYインジケーターが点灯します。登録済みのプリセット番号を選んだ場合は、プリセット番号の右側に登録された周波数が表示されます。



リモコンの戻るキーを押す（または約30秒間操作をしない）と、登録を中止できます。

4 もう一度メモリーキーを押して登録を行う。

■ プリセット放送局の登録を解除する

1 オプションキーを押してオプションメニューに入る。

2 △/▽キーを使って「3.CLEAR PRESET」と表示させ、決定キーを押す。

プリセット番号と周波数が表示されます。



リモコンの戻るキーを押すと、操作を中止してオプションメニューに戻すことができます。

3 △/▽キーを使って登録を解除したいプリセット番号を選び、決定キーを押す。

選択したプリセット番号が登録解除されます。複数のプリセット番号を登録解除したい場合は、同じ操作を繰り返してください。操作を終了するには、オプションキーを押してください。

■ モノラル受信を行う

お好みの放送局の電波が弱く、ノイズが多い場合は受信モードを「MONO」に設定することでノイズを軽減することができます。

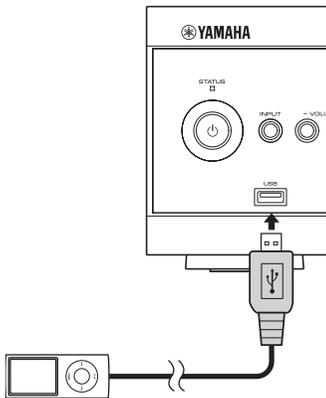
1 オプションキーを押して、オプションメニューに入る。

2 ▽キーを押して「4.STEREO/MONO」と表示させ、決定キーを押す。

3 △/▽キーを押して、「STEREO」と「MONO」の中から「MONO」を選択する。

iPod/iPhone や USB デバイスの再生

iPod/iPhoneやUSBメモリー、携帯音楽プレーヤーなどのUSBデバイスを本機に接続して、デバイス内のオーディオファイルを再生します。



充電機能

本機の電源がオンのとき、接続されているデバイスを充電します。iPod/iPhoneを本機に接続して充電中に本機をスタンバイにした場合は、そのまま充電を続けます。

対応する iPod/iPhone

- iPod classic
- iPod nano (第3世代～第6世代)
- iPod touch
- iPhone
- iPhone 3G
- iPhone 3GS
- iPhone 4



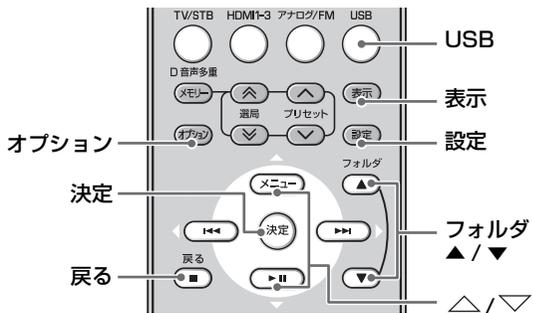
- iPod/iPhoneの種類やソフトウェアのバージョンにより、一部の機能が使えない場合があります。
- iPod/iPhone接続時にフロントパネルディスプレイに表示されるメッセージについては、「困ったときは」の「iPod/iPhone、USBデバイス接続時のメッセージ」(P.26 ページ)をご覧ください。
- あらかじめ本機の音量を最小にしてから、iPod/iPhoneの着脱を行ってください。

対応する USB デバイス

FAT形式でフォーマットされ、USB マスストレージクラスに対応しているUSBメモリーやUSB携帯オーディオプレーヤー

ご注意

上記の中で一部本機に対応していないUSBデバイスもあります。



再生する

- 1 入力キーのUSBキーを押して、入力をUSBに切り替える。
- 2 iPod/iPhoneやUSBデバイスを再生する。

iPod/iPhone	USB デバイス
▶▶: 再生 / 一時停止 ▶▶: 次へ (長押し: 早送り) ◀◀: 前へ (長押し: 巻き戻し) ▲ / ▼: 画面をスクロール	▶▶: 再生 / 一時停止 *1 ▶▶: 次へ (長押し: 早送り) ◀◀: 前へ (長押し: 巻き戻し) 戻る: 停止 フォルダ▲ / ▼: フォルダをスキップ *2

*1 最後に再生した曲から再生します。(レジューム再生)

*2 スキップ時にフロントパネルディスプレイにフォルダ名を表示します。



次のような場合、本機は自動的に iPod/iPhone や USB デバイスを再生します。

- 本機電源がオンで、iPod/iPhone や USB デバイスの接続中に USB 入力に変更した場合
- iPod/iPhone や USB デバイスの接続中に本機電源をオフからオンにし、USB 入力だった場合
- 本機電源がオンで、再生中の iPod/iPhone を接続した場合 (自動で USB 入力に切り替わります)

リピート/シャッフル再生

- 1 オプションキーを押して、オプションメニューに入る。
- 2 △/▽キーを押して「2.REPEAT」を選択し、決定キーを押す。
- 3 △/▽キーを押して設定項目を選択し、決定キーを押す。

設定項目（初期設定：OFF）

	iPod/iPhone	USB デバイス
OFF	リピート再生を解除します。	リピート再生を解除します。
ONE	1 曲を繰り返し再生します。	1 曲を繰り返し再生します。
ALL	iPod/iPhone に保存された全曲を繰り返し再生します。	デバイス内に保存された全曲を繰り返し再生します。
FOLDER	/	デバイス内に保存されたフォルダの中の曲を繰り返し再生します。
RANDOM		フォルダ内に保存された全曲をランダムに再生します。

■ iPod/iPhone をシャッフル再生する

- 1 オプションキーを押して、オプションメニューに入る。
- 2 △/▽キーを押して「3.SHUFFLE」を選択し、決定キーを押す。
- 3 △/▽キーを押して設定項目を選択し、決定キーを押す。

設定項目（初期設定：OFF）

「OFF」：シャッフル再生を解除します。

「SONGS」：iPod/iPhone に保存された曲をランダムに再生します。

「ALBUMS」：保存されたアルバム単位でランダムに再生します。

曲の情報を表示する

再生中の曲についての情報を本機フロントパネルディスプレイに表示します。

表示キーを押す。

繰り返し押すことで次の順で切り替わり、それぞれ 3 秒間表示されます。

iPod/iPhone：曲名→再生時間→アーティスト名→アルバム名→曲名

USB デバイス：ファイル名→再生時間→曲名→アーティスト名→アルバム名→ファイル名

ご注意

- フロントディスプレイに表示しきれない場合は一度スクロールします。
- 本機フロントパネルディスプレイに表示されない文字もあります。

ファームウェアアップデート

本機ファームウェアをアップデートすることができます。

- 1 USBメモリーにファームウェアデータを入れ、本機に接続する。

ファームウェアのデータはUSBメモリーの第1階層に入れてください。ファームウェアデータに添付される文書もご覧ください。

- 2 設定キーを押す。
- 3 △/▽キーを押して「6:FIRMWARE」を選択し、決定キーを押す。
- 4 △/▽キーを押して「6-2:USB UPDATE」を選択し、決定キーを押す。
アップデートを開始します。



- このとき△/▽キーを押して「6-1:VERSION」を選択すると、本機ファームウェアのバージョンがフロントパネルディスプレイに表示され、確認することができます。
- アップデートについてのメッセージについては「困ったときは」の「ファームウェアアップデートについてのメッセージ」（☞26 ページ）をご覧ください。

応用操作

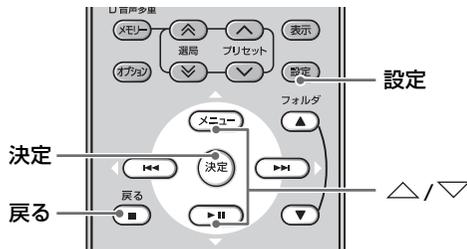
設定メニュー

設定メニューリスト

メニュー	サブメニュー	内容	ページ
1:SP LEVEL	1-1:FRONT L	テスト音を聴きながら、音量バランスを調整する	P.18
	1-2:FRONT R		
	1-3:CENTER		
	1-4:SURROUND L		
	1-5:SURROUND R		
	1-6:SUBWOOFER		
2:TONE CONTROL	2-1:BASS	低音 / 高音を調整する (トーンコントロール)	P.18
	2-2:TREBLE		
3:HDMI SETUP	3-1:CONTROL	HDMI に関する設定をする	P.18
	3-2:AUDIO		
4:DISPLAY MODE		フロントパネルディスプレイの明るさを変える	P.18
5:SP SETUP	5-1:SP CHANNEL	スピーカーのチャンネル数を選択する	P.19
	5-2:SP TYPE	スピーカーのタイプを設定する	
	5-3:SP DISTANCE	スピーカー間の設置距離を設定する	
	5-4:CROSSOVER	クロスオーバーする音域をカットする	
6:FIRMWARE	6-1:VERSION	本機のファームウェアのバージョンを表示する	P.16
	6-2:USB UPDATE	本機のファームウェアをアップデートする	
7:D.RANGE		ダイナミックレンジ圧縮の設定をする	P.20
8:MATRIX DECODE	8-1:DECODE MODE	デコーダーを選択する	P.20
	8-2:C. IMAGE	センターイメージを調節する	

基本手順

設定メニューを使って、本機の機能を詳細に設定します。



1 設定キーを押す。

フロントパネルディスプレイに「1:SP LEVEL」が表示されます。

2 △/▽キーを押してメニューを選択し、決定キーを押す。

設定したいメニュー / サブメニューが表示されるまで、この手順を繰り返してください。

3 △/▽キーを押して、各メニューの設定値を調節する。

△/▽キーを長押しすると、設定値を早く変化させることができます。

4 設定キーを押して、設定メニューを解除する。

- 戻るキーまたは<キーを押すと、一つ手前のメニュー表示に戻ります。
- >キーを押すと、次の階層に進みます。

ご注意

30 秒以内に操作が行われない場合、設定メニューは解除されます。

各チャンネルの音量バランスの設定

メニュー表示：「1:SP LEVEL」

チャンネルごとに出力されるテスト音を聴きながら、チャンネル間の音量バランスを調節します。

サブメニュー表示：

「1-1:FRONT L」、 「1-2:FRONT R」：フロントスピーカー（左/右）の音量を調節

「1-3:CENTER」：センタースピーカーの音量を調節

「1-4:SURROUND L」、 「1-5:SURROUND R」：バーチャルサラウンドスピーカーまたはサラウンドスピーカー（左/右）の音量を調節

「1-6:SUBWOOFER」：サブウーファーの音量を調節

設定範囲：-6～+6（初期設定値：0）



- 入力機器を再生中に音量バランスを調整することもできます。（※12 ページ）
- 調整画面でレベルキーを押すと他のチャンネルに移動できます。

低音 / 高音を調整する （トーンコントロール）

メニュー表示：「2:TONE CONTROL」

スピーカーから出力される音声の低音域（BASS）と高音域（TREBLE）のバランスを変更して、お好みの音色に調節します。ヘッドホン接続時は、ヘッドホン出力の高音 / 低音を調整できます。

サブメニュー表示：

「2-1:BASS」：低音域のスピーカー出力を調節します。

「2-2:TREBLE」：高音域のスピーカー出力を調節します。

設定範囲：-6～+6（初期設定値：0）

HDMI に関する設定

メニュー表示：「3:HDMI SETUP」

HDMI 信号や HDMI コントロール機能に関する設定をします。

■ HDMI コントロール機能のオン/オフを切り替える

サブメニュー表示：「3-1:CONTROL」

HDMI コントロール機能（※22 ページ）のオン/オフを切り替えます。

設定項目：ON、OFF（初期設定：ON）

「ON」：HDMI コントロール機能を有効にします。

「OFF」：HDMI コントロール機能を無効にします。本機の待機時消費電力を低減できます。



オーディオリターンチャンネル（ARC）機能を有効にするには、「3-1:CONTROL」を「ON」に設定してください。

■ オーディオの出力先を選択する

サブメニュー表示：「3-2:AUDIO」

HDMI 音声信号を本機で再生するか、HDMI 端子に接続したテレビで再生するか選択します。「3-1:CONTROL」が「OFF」のときに機能が有効になります。

設定項目：AMP、TV（初期設定：AMP）

「AMP」：入力された音声信号を本機で再生します。

「TV」：HDMI 出力端子に接続したテレビで再生します。

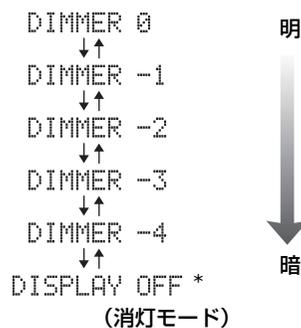
フロントパネルディスプレイの明るさを変える

ディスプレイの明るさを変更します。暗い部屋で映画を鑑賞するときなどに、ディスプレイを消灯モードにすることもできます。

メニュー表示：「4:DISPLAY MODE」

設定範囲（初期設定値：「DIMMER 0」）

ディスプレイの明るさは下図のように変わります。ディスプレイに応じて、インジケータの明るさも変わります。



* 「DISPLAY OFF」に設定すると、設定メニューを抜けたときに、ディスプレイが消灯します。

ご注意

- 消灯モードが設定されているときに何か操作を行うと、ディスプレイが一時的に点灯します。
- 消灯モードに設定されても、STATUS ステータス インジケータは点灯しています。

付属以外のスピーカーを使用する

メニュー表示：「5:SP SETUP」

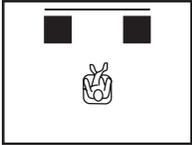
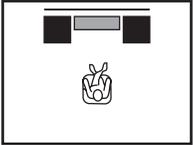
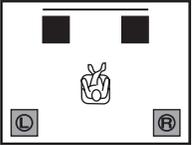
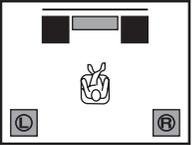
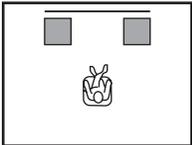
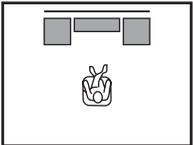
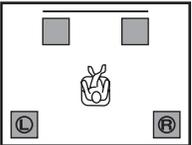
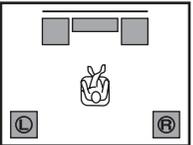
スピーカーを変更したり、追加したりする場合に、設定を変更します。付属のスピーカーを使用する場合、設定変更の必要はありません。

■ チャンネル数とフロントスピーカーのタイプを選択する

サブメニュー表示：「5-1:SP CHANNEL」

出力するスピーカーのチャンネル数を選択します。

付属のスピーカー：■ 市販のスピーカー：■

5-1:SP CHANNEL \ 5-2:SP TYPE	2CH (初期設定)	3CH	4CH	5CH
BAR				*3
BOOK SHELF (初期設定)	 *1	 *1	 *1, 3	 *1, 3
OTHER	 *1, 2	 *1, 2	 *1, 2, 3	 *1, 2, 3

*1：「5-3:SP DISTANCE」を設定可能

*2：「5-4:CROSSOVER」を設定可能

*3：「8:MATRIX DECODE」を設定可能

■ スピーカー間の設置距離を設定する

サブメニュー表示：「5-3:SP DISTANCE」

フロントスピーカー（左/右）の間隔に合った設定を選び、最適なサラウンド効果を得ることができます。

設定項目：WIDE、NORMAL、NARROW（初期設定：NORMAL）

「WIDE」：フロントスピーカー間の距離が150cm以上の場合

「NORMAL」：フロントスピーカー間の距離が80cm～150cmの場合

「NARROW」：フロントスピーカー間の距離が80cm以下の場合

ご注意

- サラウンドモードがオフのときは、本機能を設定しても無効になります。
- この設定は「5-1:SP CHANNEL」が「2CH」、「3CH」のときのみ有効です。

サブメニュー表示：「5-2:SP TYPE」

フロントスピーカーのタイプを選択することができます。

「BAR」：YHT-S401 専用の設定です。本システムでは使用しません。

「BOOK SHELF」：本システムを使用する場合、または本システムに市販のスピーカーを追加して接続する場合

「OTHER」：市販のスピーカーのみを接続する場合

ダイナミックレンジ圧縮の設定

メニュー表示：「7: D.RANGE」

音量を下げて再生したり、夜間に再生したりするときのダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を設定します。

設定項目：AUTO/MIN、STANDARD、MAX（初期設定：MAX）

「AUTO/MIN」：

（MIN）Dolby TrueHD 信号以外のビットストリーム信号再生時に、夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。

（AUTO）Dolby TrueHD 信号再生時に、入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを調節します。

「STANDARD」：一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

「MAX」：入力された信号を補正せず、そのまま再生します。

マトリックスデコードの設定

メニュー表示：「8: MATRIX DECODE」

マトリックスデコードとは2ch 音声をサラウンドに拡張する機能です。

■ デコーダーを選択する

サブメニュー表示：「8-1:DECODE MODE」

サラウンドモードを「STANDARD」にした場合にのみ、マトリックスデコードモードが有効になります。

設定項目：DOLBY PLII、Neo:6 Cinema、Neo:6 Music（初期設定：DOLBY PLII）

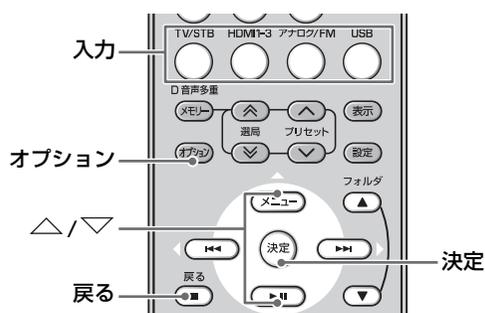
■ センターイメージを調節する

サブメニュー表示：「8-2:C. IMAGE」

フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。値を大きくすると広がり感が減少し、小さくすると広がり感が増します。「8-1:DECODE MODE」で「Neo:6 Music」を設定しているときにのみ、センターイメージの設定が有効になります。

設定値：0.0～1.0（初期設定値：0.3）

入力ごとの設定（オプションメニュー）



1 入力選択キーを押して、設定を変更する入力を選択する。

2 オプションキーを押す。

オプションメニューがフロントパネルディスプレイに表示されます。

オプションメニュー項目一覧

各入力には、以下のようなメニュー項目があります。

入カソース	メニュー項目	
TV/STB/ アナログ	1.VOLUME TRIM	2.AUDIO DELAY
HDMI1-3		3.AUDIO ASSIGN
FM		2.AUTO PRESET 3.CLEAR PRESET 4.STEREO/MONO*1
USB		2.REPEAT 3.SHUFFLE*2

*1 詳しくは 13 ページをご覧ください。

*2 詳しくは 16 ページをご覧ください。

3 \triangle/∇ キーでメニューを選択し、決定キーを押す。

4 \triangle/∇ キーで設定値を変更し、決定キーを押す。

5 オプションキーを押して、オプションメニューを解除する。

戻るキーを押すと、一つ手前のメニュー表示に戻ります。

オプションメニュー項目の内容は以下のとおりです。現在選択している入力に設定が反映されます。

各端子の入力レベルを設定する (VOLUME TRIM)

メニュー表示：「1.VOLUME TRIM」

端子ごとに入力レベルを設定して、入力機器毎の異なる音量のばらつきを調節します。

設定範囲：-6 ~ +6 (初期設定値：0)

映像と音声のタイミングを調整する (AUDIO DELAY)

メニュー表示：「2.AUDIO DELAY」

接続しているテレビでデジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します（オーディオディレイ（リップシンク）機能）。

設定範囲：0ms ~ 500ms (初期設定値：AUTO)

「AUTO」：リップシンクの自動補正機能のあるテレビとHDMI接続している場合に、HDMI入力を選択しているとき、音声の遅延時間を自動的に設定することができます。

音声を光 / 同軸デジタル入力に割り当てる (AUDIO ASSIGN)

メニュー表示：「3.AUDIO ASSIGN」

HDMI端子からは映像信号しかでない機器を使用する場合、HDMI入力を選択時にHDMIからの音声ではなく光デジタル端子もしくは同軸デジタル端子から入力された音声を再生することができます。

設定項目：HDMI、OPTICAL、COAXIAL (初期設定：HDMI)

「HDMI」：HDMIの音声をを選択する

「OPTICAL」：光デジタル入力端子の音声をを選択する

「COAXIAL」：同軸デジタル入力端子の音声をを選択する

テレビのリモコンで本機を操作する

HDMI コントロール機能とは

HDMI を使用したコントロール機能（リンク機能）に対応しているテレビ（一部を除く）と本機を HDMI ケーブルで接続した場合、テレビのリモコンで本機を操作できます（例：レグザリンク）。操作できる機能は主に以下の4つです。*1

テレビのリモコン（例）



このほか一部のテレビでは以下の機能を操作できます。

- デジタル放送のジャンル情報（EPG コード）に合わせて最適なサラウンドモード（※11 ページ）を自動的に選択 *2

- ユニボリューム機能のオン/オフ

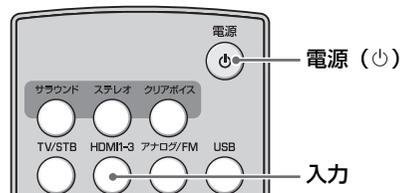
*1 ※

- HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビでも、一部機能が操作できないものがあります。詳しくはテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI を使ったコントロール機能に対応している BD レコーダーなどを HDMI で接続している場合は、それらの機器も連動して操作できます。詳しくはご使用の機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- テレビおよびレコーダーなどの機器は、同一メーカーの製品で統一することをおすすめします。
- 対応するテレビやレコーダーなどの機器については、下記 WEB サイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

*2 ※

おまかせサラウンド機能

- おまかせサラウンド機能を使うには、対応するテレビと本機を HDMI ケーブルで接続し、HDMI コントロール機能を有効にしてください（※18 ページ）。
- 対応するテレビについては下記 WEB サイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/omakase_surround/



HDMI コントロール機能の設定

設定の前に、左記の操作が正常に機能するかご確認ください。機能する場合はそのままご使用ください。機能しない場合は、以下のような設定が必要です。

- HDMI で接続しているすべての機器の電源をオンにする。
- HDMI で接続しているすべての機器の設定を確認し、コントロール機能を有効にする。
本機側では、設定メニューの「3:HDMI SETUP」の「3-1:CONTROL」が「ON」に設定されていることを確認します（※18 ページ）。*3
外部機器側については、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。*4
- テレビの電源を一度オフにし、再びオンにする。

*3 ※

- 初期設定では「ON」に設定されています。
- 設定メニューの「3:HDMI SETUP」の「3-1:CONTROL」が「ON」に設定されているとき
 - 電源 (⏻) キーを押しても、完全な電源オフ状態にはならず、HDMI 入力端子から HDMI 出力端子へ信号が出力されます。
 - 電源を切る前に、視聴したい機器が接続された HDMI 入力 (① ~ ②) 端子を選択しておく必要があります。
 - テレビによっては、チャンネルを変えるなどのテレビの操作で、サラウンドモードなどの本機の設定が変更される場合があります。

*4 ※

テレビの設定の例

- 設定メニューから「リンク設定」→「HDMI 連動設定」（例）を選択し、「HDMI 連動機能」などの項目を「連動する（使用する）」に設定してください。
- 「優先スピーカー」などの設定は「AV アンプ」にしてください。

HDMI 機器のテレビへの登録*5

- 1 テレビの入力を本機に切り替える。
- 2 本機に接続した、HDMI コントロール機能に対応している BD レコーダーなどの電源をオンにする。
- 3 本機の入力をBDレコーダーに切り替えて、BD レコーダーの画像が正しく映るかを確認する。
BDレコーダーをHDMI入力①端子で接続している場合、入力キーを押して「HDMI 1」を選択します。
- 4 テレビのリモコンを使って本機の電源をオンにしたり、音量を調節したりして、本機が正しく連動しているか確認する。

*5 ※

HDMI コントロール機能を設定するだけで本機を使用できる HDMI 機器もあります。この場合、HDMI 機器のテレビへの登録は必要ありません。

連動機能が動作しないときは

以下のことをご確認ください。

- テレビが本機のHDMI 出力端子に接続されている
 - 設定メニュー「3:HDMI SETUP」の「3-1:CONTROL」(P.18 ページ)が「ON」に設定されている
 - テレビ側の設定でHDMIコントロール機能が有効になっている(電源連動機能や優先スピーカーの設定など関連する設定も確認してください)
- それでも連動機能が動作しない場合は、
- 本機とテレビの電源をオン/オフしてください。
 - 本機およびHDMI接続している機器の電源プラグをコンセントからはずし、30秒ほど経ってから、接続し直してください。
 - HDMI 1、HDMI 2、HDMI 3 を選択したあとは、テレビの入力と本機の入力をそれぞれ同じものに切り替えてください。

接続方法や接続機器を変更する

接続する機器や端子を変更した場合は以下の手順で再設定してください。

- 1 一度テレビやBDレコーダーのHDMIコントロール機能をオフにしてから、すべての機器の電源をオフにし、接続を変更する。
- 2 「HDMI コントロール機能の設定」の手順1～3を再度操作する。

その他の情報

困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は下記の点をご確認ください。

対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にあるご相談センターにお問い合わせください。まず以下の点を確認してください。

- ① 本機、テレビ、外部機器（BDレコーダーなど）の電源ケーブルのプラグがコンセントにしっかりと接続されている。
- ② 本機、サブウーファー、テレビ、外部機器（BDレコーダーなど）の電源が入っている。
- ③ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう。	電源コードがしっかりと接続されていない。	電源コードをコンセントにしっかりと差し込んでください。	8
	スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	8
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）によりフリーズしている。	スタンバイモードにし、コンセントから電源プラグを抜いてください。約 30 秒後にもう一度差し込み、電源を入れてください。	10
スピーカーから音が出ない。	スピーカーの音量が小さい。	スピーカーの音量を調節してください。	10、18
	消音されている。	リモコンの消音キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	10
	再生したい入力为正しく選ばれていない。	再生したい入力を正しく選んでください。	10
	スピーカーケーブルが正しく接続されていない。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	8
	設定メニュー「3:HDMI SETUP」の「3-2:AUDIO」の設定値が「TV」になっている。	設定メニュー「3:HDMI SETUP」の「3-2:AUDIO」の設定値を「AMP」にする。	18
	設定メニュー「3:HDMI SETUP」の「3-1:CONTROL」が「OFF」に設定されている。	ARC（オーディオリターンチャンネル）対応のテレビと本機を HDMI ケーブルのみで接続する場合は、設定メニュー「3:HDMI SETUP」の「3-1:CONTROL」を「ON」に設定してください。	18
		本機の光デジタル入力（TV）端子とテレビの音声出力端子を光ファイバーケーブルで接続してください。	9
	ヘッドホンが接続されている。		
片側のチャンネル音がほとんど出ない。	スピーカーケーブルが正しく接続されていない。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	8
サラウンドスピーカーから音が出ない。	サラウンドモードを使用しないで再生している。	サラウンドモードキーを押して、サラウンドモードで再生してください。	11
	設定メニュー「1:SP LEVEL」の「1-4:SURROUND L」 / 「1-5:SURROUND R」の設定値が最小値になっている。	設定メニュー「1:SP LEVEL」の「1-4:SURROUND L」 / 「1-5:SURROUND R」の設定値を調節する。	18
	「5-1:SP CHANNEL」の設定が「2CH」または「3CH」になっている。	「5-1:SP CHANNEL」の設定を「4CH」または「5CH」に設定してください。	19
サブウーファーから音が出ない。	サブウーファーの音量が小さい。	サブウーファーの音量を調節してください。	5、18
	再生しているソースに LFE や低音信号が含まれていない。		
設定した音量が下がっていた。	スピーカー保護のため、音量が 70 以上に設定された場合は、次回電源をオンにしたときに音量が自動的に 70 に設定されます。		

症状	原因	対策	参照ページ
音が小さい、または雑音が入る。	スピーカーケーブルがショートしている。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているかご確認ください。	8
本機が正常に動作しない。	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	スタンバイモードにし、コンセントから電源プラグを抜いてください。約 30 秒後にもう一度差し込み、電源を入れてください。	10
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている。	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	—
設定した内容が変わってしまう。	設定メニュー「3:HDMI SETUP」の「3-1:COTROL」が「ON」に設定されているとき、テレビの仕様によっては、チャンネルを変えるなどのテレビの操作で、サラウンドモードなどの本機の設定が変更される場合があります。	設定メニュー「3:HDMI SETUP」の「3-1:COTROL」を「OFF」に設定するか、本機のリモコンで再度設定してください。	18
リモコンで操作できない。	リモコンの操作範囲外で操作している。	リモコンの操作範囲について詳しくは「リモコンを準備する」をご覧ください。	2
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池を交換してください。	2
オプションメニュー「2:AUDIO DELAY」の「AUTO」設定が効かない。	テレビが自動調整機能に対応していない。	手動で（0ms ~ 500ms の値を）設定してください。	21
HDMI コントロール機能が正常に作動しない。	制限台数を超える HDMI 機器を接続している。	接続している HDMI 機器の数を減らしてください。	—
	HDMI 機器の接続を追加した。	HDMI コントロール機能を再度オンに設定してください。	18
音声や映像が出ない。	接続している HDMI 機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	—

■ FM

症状	原因	対策	参照ページ
ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい。	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力弱い。	アンテナの接続を確認してください。	9
		屋外アンテナを使用している場合は感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
		受信モードを「MONO」に設定してください。	14
FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い。	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
自動選局ができない。	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力弱い。	屋外アンテナを使用している場合は感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
		受信モードを「MONO」に設定し、選局  /  キーを短く押して 1 ステップずつ周波数を変更してください。	13、14

■ iPod/iPhone、USB デバイス接続時のメッセージ

ご注意

フロントパネルディスプレイに表示される下記のメッセージ以外で不具合がおこった場合は、お使いのデバイスの接続を確認してください (※ 15 ページ)。

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod/iPhone、USB デバイスが接続されています。	本機に対応している iPod/iPhone、USB デバイスのいずれかをお使いください。	15
No Device	iPod/iPhone、USB デバイスが接続されていない。	再生が可能な曲が保存されたデバイスを接続してください。	—
Loading...	時間のかかる処理を実行している。	処理が終わると表示は消えます。	—
No Content	再生可能なファイルがない。	再生が可能な曲が保存されたデバイスを接続してください。	—
	ファイルが読み込めない。	PC など別の機器で再生可能か調べてください。	—
Unable to Play	選択しているファイルが非対応の音声フォーマットである。	対応している音声フォーマットで保存しなおしてください。	—
	選択しているファイルが壊れている。	別の曲を選択してください。	—
Connect Error	通信ができなくなった。	本機の電源をスタンバイにし、デバイスとの接続を確認してください。	—
Root	停止して第一階層に戻っている。	再生を始めると表示は消えます。	—
Disconnected	デバイスが本機から取りはずされました。	約 3 秒後にメッセージは消えます。	15

ファームウェアアップデートについてのメッセージ

メッセージ	内容	対策	参照ページ
Connect USB!	USB メモリーが接続されていない。	USB メモリーを接続してください。	16
No Firmware!	接続した USB メモリー内にファームウェアに関するファイルがない。	接続する USB メモリーの第 1 階層にファームウェアアップデート用のファイルを保存してください。	—
	USB メモリーに不具合がある。	本機の電源をスタンバイにし、機器との接続を確認してください。	—
Connect Error	一度 USB メモリーに接続はできたが、選択したファイルが壊れていたために、その後通信ができなくなった。	接続する USB メモリーにファームウェアアップデート用のファイルを保存しなおしてください。	—
Update... 30%	アップデート中。進行状況をパーセント表示。		
Update Error	アップデート中にエラーが発生し、正常にアップデートできずに終了した。	アップデートをやりなおしてください。	16
Update Success	アップデートが正常に終了した。		
Please...	アップデート終了後の本機電源をオフにする指示。「Update Success」または「Update Error」と交互に表示。	本機電源をスタンバイにしてください。	—
Power Off!	アップデート終了後の本機電源をオフにする指示。「Update Success」または「Update Error」と交互に表示。	本機電源をスタンバイにしてください。	—

🔌 本機をリセットする

本機の操作ができなくなったときなどに、リセットすることで問題が解決する場合があります。本機をリセットするには、本体の電源キーを 10 秒以上押し続けてください。

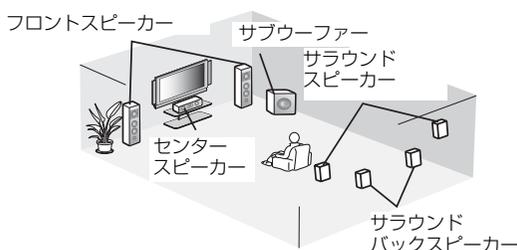
用語解説

■ AIR SURROUND XTREME

本機は新しいバーチャルサラウンド技術とアルゴリズムを搭載しております。壁の反射を利用せず、フロントスピーカーのみで7ch サラウンド効果を生み出すことが可能です。

通常、7.1 チャンネルのサラウンドをお楽しみいただくには、フロントスピーカー（2本）、センタースピーカー（1本）、サラウンドスピーカー（2本）、サブウーファー（1本）、サラウンドバックスピーカー（2本）が必要です。

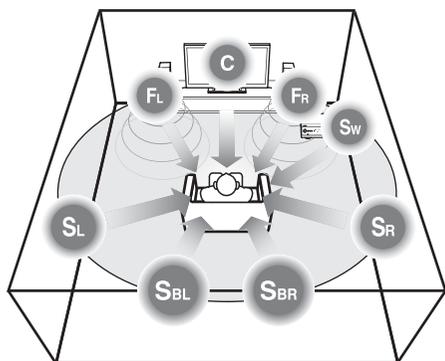
標準的な7.1チャンネルスピーカーシステム



バーチャル7.1チャンネル

AIR SURROUND XTREME 技術を用いることにより、フロントスピーカーとサブウーファーだけで、サラウンド、サラウンドバックを含む7.1チャンネルの臨場感をお楽しみ頂くことができます。

本機のサウンドイメージ



本機はスピーカーとAVアンプ・サブウーファーで7.1チャンネルのサラウンド効果をつくりだします。

C：センタースピーカー

FR, FL：フロントスピーカー

SW：サブウーファー

SR, SL：サラウンド・バーチャルスピーカー

SBR, SBL：サラウンドバック・バーチャルスピーカー

■ サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

■ ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3チャンネル（フロント左/右、センター）と、サラウンド2チャンネル（サラウンド左/右）、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。サラウンド2チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

■ ドルビーデジタルプラス

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスクや、デジタルテレビ向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、最大7.1chのディスクリート音声信号を、最大転送レート6Mbpsで収録可能です。

■ ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIはドルビープロロジックを改良した方式で、ドルビーサラウンド方式のソフトに多く採用されています。2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。従来2チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■ ドルビー TrueHD

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz/24bit時には最大8chのディスクリート音声信号を、最大転送レート18Mbpsで収録可能です。

■ AAC (Advanced Audio Coding)

MPEG-2/MPEG-4 オーディオ規格に含まれるデジタル圧縮オーディオ信号です。BS / 地上デジタル放送で採用されています。最大で5.1チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。

■ Deep Color

HDMIがサポートしている映像技術です。RGBまたはYCBCR 信号の処理を、従来の8ビットに対して10/12/16ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

■ DTS

DTS社が開発したデジタル・サラウンド・フォーマット（音声圧縮技術）で、DVDなどに使用されています。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率を採用しており、クリアで厚みのある音質で5.1chサウンドが再生できます。

■ DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz/24bitで最大7.1chのディスクリット音声信号を、最大転送レート6Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。

■ DTS-HD マスターオーディオ

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクで標準採用され、96kHz/24bitで最大7.1chのディスクリット音声信号を、最大転送レート24.5Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。

■ DTS Neo : 6

DTS社が開発した、2chソースを6ch化してサラウンド再生する技術です。再生するソースに合わせて、映画用のNeo : 6 Cinemaモードと音楽用のNeo : 6 Musicモードが用意されています。

■ HDMI

世界業界標準規格であるHDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP : High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1本のケーブルで伝送できます。

■ MP3

映像データ圧縮方式のMPEG-1で利用される音声圧縮方式の一つ。最も広く普及している音声圧縮方式の一つ。

■ MPEG-4 AAC

MPEG-4オーディオ規格の1つで、MPEG-2 AACより低いビットレートでデータを圧縮できることから、携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高品質が求められる機器にも利用されています。また、上記の機器以外にもインターネット上のコンテンツ配信など、パソコンやメディアサーバーなどで多く利用されている規格です。

■ PCM (パルス・コード・モジュレーション)

アナログ信号をデジタル信号に変換する代表的な方式です。PCMは非常に短く区切った単位時間あたりの信号レベルを符号化（コード化）します。MP3形式やATRAC形式のような圧縮処理を用いないことから、リニアPCMとも呼ばれています。CDやDVDオーディオの録音方式などに採用されています。

■ WMA (ウィンドウズ・メディア・オーディオ)

Microsoft社が開発した音声圧縮方式です。同社のWindowsなどに搭載されているマルチメディア技術「Windows Media」を構成する技術の一つで、同社製品の標準の音声圧縮方式です。

■ x.v.Color

HDMI がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画やCGで高い効果が得られます。

主な仕様

■ SR-301

オーディオ部

- 定格出力
フロント左 / 右 (1kHz, 1% THD, 6Ω).....45W+45W
センター (1kHz, 1% THD, 6Ω) 45W
サラウンド左 / 右 (1kHz, 1% THD, 6Ω)45W+45W
サブウーファー (100Hz, 1% THD, 3Ω)..... 90W
- 実用最大出力
フロント左 / 右 (1kHz, 10% THD, 6Ω).....50W+50W
センター (1kHz, 10% THD, 6Ω) 50W
サラウンド左 / 右 (1kHz, 10% THD, 6Ω)50W+50W
サブウーファー (100Hz, 10% THD, 3Ω).....100W

FM チューナー部

- 受信周波数帯域.....76.0MHz ~ 90.0MHz
- アンテナ入力インピーダンス.....75Ω

サブウーファー

- タイプバスレフ型
非防磁型
- ユニット13cm コーンタイプ
- 再生周波数帯域.....35Hz ~ 150Hz
- インピーダンス.....3Ω



本機は新しいバーチャルサラウンド技術とアルゴリズムを搭載しております。壁の反射を利用せず、フロントスピーカーのみで7ch サラウンド効果を生み出すことが可能です。



ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。ドルビー、PRO LOGIC、Surround EX およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。



米国特許番号：5,956,674; 5,974,380; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567 及び、その他米国や世界各国に出願し権利を保有する特許に基づき製造されています。DTS-HD やそのシンボルマーク、また DTS-HD とそのシンボルマークを合わせたロゴは DTS, Inc. の登録商標です。「製品」にはソフトウェアも含まれます。著作権 DTS 社。不許複製。

iPod, iPhone

「Made for iPod」、「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod または iPhone 専用接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって証明された電子アクセサリであることを示します。アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touch、iTunes は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

総合

- 電源電圧.....AC100V、50/60Hz
- 消費電力.....40W
- 待機消費電力
(HDMI コントロール オン時).....5W 以下
(HDMI コントロール オフ時).....0.5W 以下
- 寸法 (幅×高さ×奥行き)
横置き時.....435 × 135 × 361mm
縦置き時.....145.5 × 443.5 × 361mm
- 質量.....7.9kg

■ NS-P705

- タイプ2ウェイ密閉型
非防磁型
- スピーカーユニット
ウーファー.....5.5cm コーン × 2
ツイーター.....2.5cm バランスドーム × 1
- インピーダンス.....6Ω
- 再生周波数帯域.....150Hz ~ 20kHz
- 寸法 (幅×高さ×奥行き)
NS-P705.....95 × 190 × 98mm
スタンド.....78 × 51 × 97mm
- 質量.....0.92kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

HDMI

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

UniVolume

「ユニボリューム™」は、ヤマハ株式会社の商標です。



AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。

ブルーレイ、ブルーレイディスクは商標です。

音を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適度な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

対応する信号

■ HDMI

本機が受信可能な音声信号

音声フォーマット	詳細	ディスク (例)
2チャンネルリニア PCM	2ch、32-192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-192kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、ブルーレイディスク、HD DVD
ビットストリーム	DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ、DTS、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、ドルビーデジタル、AAC	DVD-Video、ブルーレイディスク



- 本機へ接続する方法については、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- お使いの DVD プレーヤーによっては、コピープロテクトがかかった DVD オーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器または DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

本機が受信可能な映像信号

—解像度

- 480i/60Hz
- 576i/50Hz
- 480p/60Hz
- 576p/50Hz
- 720p/60Hz、50Hz
- 1080i/60Hz、50Hz
- 1080p/60Hz、50Hz、24Hz

—Deep Color

—x.v.Color

—3D 映像信号



接続したテレビにより、対応する映像信号は変わります。

■ デジタル音声 (光・同軸)

音声フォーマット	詳細	ディスク (例)
2チャンネルリニア PCM	2ch、32-96kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
ビットストリーム	ドルビーデジタル、ドルビーデジタル EX、DTS、DTS-ES、AAC	DVD-Video

■ iPod/iPhone/USB デバイス

対応する音声データ圧縮規格

- WAV (8kHz～48kHz、16bit)
- MP3 (8kHz～48kHz、5kbps～320kbps)
- WMA (8kHz～48kHz、5kbps～384kbps)
- MPEG4-AAC (8kHz～48kHz、8kbps～320kbps)

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通) **0570-011-808**

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～17:00
(日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

■ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

<http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通) **0570-012-808**

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00
(日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、東海、北陸地域にお住まいのお客様
(06) 6465-0367

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 9:00～17:45
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

名古屋サービスステーション

〒454-0832 名古屋市中川区清船町4丁目1-11
ピアノ運送(株)名古屋営業所1F
FAX (052) 363-5903

九州サービスステーション

〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092) 472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

- **保証期間**
製品に添付されている保証書をご覧ください。
- **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。
- **修理料金の仕組み**

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。
- **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。
- **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

